

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	1
使途名	土地利用型作物助成					
対象作物	小麦					
単 価	13, 500円/10a(2回目の配分額に応じて20,000円/10aを上限として単価を増額調整する)					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。目下の課題として、高齢化による労働力の低下による生産性低下が上げられることから、地域全体の生産性向上を図り、水田面積の作付維持・拡大をしていく必要がある。 また、病害虫の発生により品質の低下、収穫量減少の懸念があることから、病害虫発生予察を導入し、適期防除に努め、高品質な小麦生産の取組を行い、作付け面積・単収の拡大をしていく必要がある。 また、実需に対して安定供給を行う。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	272.9ha	273.0ha	273.1ha
		実績	283.5ha	272.9ha	260.1ha	—
	単収	目標	—	226kg	250kg	330kg
		実績	224kg	246kg	323kg	—
内 容	耕作放棄地や労働力低下による地域の生産面積の減少を防ぐため、土地利用型作物(小麦)の作付けに対して支援し、水田面積の維持確保を図る。					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・出荷を行った農業者 ○取組要件 ①病害虫発生予察の導入による適期防除の実施					
取組の 確認方法	○現地確認 ○栽培履歴					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認 ○販売証明(数量払申請書等)により出荷量を確認し、面積で割り返して単収を算出					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	2
使途名	土地利用型作物助成					
対象作物	大豆(黒大豆含む)					
単 価	13,500円/10a(2回目の配分額に応じて20,000円/10aを上限として単価を増額調整する)					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。目下の課題として、高齢化による労働力の低下による生産性低下が上げられることから、地域全体の生産性向上を図り、水田面積の作付維持・拡大をしていく必要がある。 また、病害虫の発生により品質の低下、収穫量減少の懸念があることから、病害虫発生予察を導入し、適期防除に努め、高品質な大豆生産の取組を行い、作付け面積・単収の拡大をしていく必要がある。 また、実需に対して安定供給を行う。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	89.3ha	89.5ha	100.0ha
		実績	86.5	89.3ha	96.2ha	—
	単収	目標	—	195kg	190kg	220kg
		実績	193kg	178kg	210kg	—
内 容	耕作放棄地や労働力低下による地域の生産面積の減少を防ぐため、土地利用型作物(大豆)の作付けに対して支援し、水田面積の維持確保を図る。					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・出荷を行った農業者 ○取組要件 ①病害虫発生予察の導入による適期防除の実施					
取組の 確認方法	○現地確認 ○栽培履歴					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認 ○販売証明(数量払申請書等)により出荷量を確認し、面積で割り返して単収を算出					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	3
使途名	土地利用型作物助成					
対象作物	てん菜					
単 価	31,500円/10a(2回目の配分額に応じて35,000円/10aを上限として単価を増額調整する)					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。目下の課題として、高齢化による労働力の低下による生産性低下が上げられることから、地域全体の生産性向上を図り、水田面積の作付維持・拡大をしていく必要がある。 また、近年の多雨により、ほ場の透排水性悪化による収穫量減少の懸念があることから、透排水性改善に効果のある取組を導入することで、実需に対して安定供給を行う。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	8.4ha	9.0ha	11.0ha
		実績	11.2ha	8.5ha	10.07ha	—
	収量の安定 (排水対策)	目標	—	6.9t	7.0t	7.5t
		実績	6.8t	6.3t	7.3t	—
内 容	水田作付け維持のため対象作物の作付け・出荷をした農業者					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・出荷を行った農業者 ○取組要件 以下の取組のうち、1つ以上透排水性改善に効果のある取組を実施する。 ①心土破砕「サブソイラ、プラソイラ等の施工」 ②「たい肥施用」1トン/10a以上散布(地力を維持するためのたい肥の施用量)し、作物が正常に生育し適正な収量・品質のてん菜を収穫し、かつ環境に負担を与えない量を施用すること。その際、たい肥の肥料効果を見込んで「北海道施肥ガイド」等を活用し適正施肥に取り組む。 ③前作物の収穫後から対象作物の移植までの期間に、対象作物のほ場において実施された土壌診断の結果を踏まえ、施肥設計する。					
取組の 確認方法	○現地確認 ○栽培履歴 ○作業日報					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認 ○販売証明(数量払申請書等)により出荷量を確認し、面積で割り返して単収を算出					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	4
使途名	高収益作物助成					
対象作物	馬鈴薯(生食・加工)・野菜(かぼちゃ、アスパラ、ミニトマト、スイートコーン)					
単 価	20,700円/10a					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。目下の課題として、高齢化による労働力の低下による生産性低下が上げられることから、高収益作物を作付けした農業者に支援することにより、地域全体の生産性の向上を図り、水田面積の作付維持・拡大をしていく必要がある。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	0.56ha	0.6ha	1.0ha
		実績	0.5ha	0.55ha	0.74ha	—
内 容	高収益作物の水田作付けに対する取組に支援する。					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・出荷を行った農業者					
取組の 確認方法	○現地確認 ○販売伝票、JA精算書等					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	5
使途名	地域振興策物助成					
対象作物	小豆・菜豆					
単 価	20,700円/10a(2回目の配分額に応じて35,000円/10aを上限として単価を増額調整する)					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。目下の課題として、高齢化による労働力の低下による生産性低下が上げられており、土地利用型作物(小麦)の作付けが一边倒にあり、小麦が過作傾向にある。小麦の連作障害を回避するために豆科作物を作付けし、連作障害の病原発生を低減することにより小麦の収益向上を図るためにも豆科の作付けを拡大していく必要がある。又、近年の悪天候により、ほ場の透排水性悪化による収穫量減少の懸念があることから、透排水性改善に効果のある取組を導入し、豆類の収益を向上するための取組に支援する。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	1.37ha	1.4ha	1.5ha
		実績	1.7ha	1.37ha	1.35ha	—
	単収	目標	—	120kg	180kg	200kg
		実績	119kg	175kg	125kg	—
内 容	水田に小豆・菜豆を作付けし、下記の取組を行う農業者に支援する。					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・出荷を行った農業者 ○取組要件 以下のいずれか1つの取組を行い、生産性改善に取り組む ①サブソイラ ②プラソイラ					
取組の 確認方法	○現地確認 ○作業日誌					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認 ○販売証明(数量払申請書等)により出荷量を確認し、面積で割り返して単収を算出					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	6
使途名	牧草収益力向上助成					
対象作物	牧草(実取りえん麦除く)					
単 価	3,600円/10a					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。近年の多雨により刈取り適期に収穫できず、粗飼料の品質悪化による、乳量・乳質・肉質・DGの低下による牧草生産農家の農業収入減少が懸念されている。良質粗飼料を生産し地域の課題を克服して生産性の向上を図り、水田面積の作付維持・拡大をしていく必要がある。また、実需に対して安定供給を行う。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	113.7ha	113.8ha	113.9ha
		実績	102.0ha	113.7ha	69.26ha	—
	単収	目標	—	—	2ロール	2.5ロール
		実績	—	1.8ロール	2ロール	—
内 容	良質粗飼料生産のための下記の取組みを行う農業者に支援する。					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・収穫を行った農業者 ○取組要件 良質な粗飼料生産のために下記の取組1～2まで各1つ以上実施する。 1. 生育促進の取組 ①堆肥散布(1t/10a以上) ②スラリー散布(200L/10a以上) ③基肥または追肥の実施(窒素2kg/10a以上) ④融雪促進「融雪剤等の散布」(20kg/10a以上) ⑤草地更新及び不耕起追播 2. 収穫 ①ロール梱包 ②バラ収穫(バンカーサイロ) ③レーキ同時ロール梱包					
取組の 確認方法	○現地確認、営農計画書、作業日報、肥料及び包装資材等の購入確認ができる物(納品伝票・送り状・請求書等)					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認 ○作業日誌等により確認					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	7
使途名	水田放牧・資源循環(耕畜連携)					
対象作物	飼料作物(牧草)					
単 価	10,400円/10a					
課 題	粗飼料生産水田に牛を放牧することによってコスト低減効果、家畜の堆肥を粗飼料生産水田に還元し、良い土作りをすることによって良品質粗飼料生産を行い、水田の高度利用を図る					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	牧草作付け面積	目標	—	113.7ha	113.8ha	122.0ha
		実績	102.0ha	113.7ha	121.5ha	—
	農地の高度利用	目標	—	22.6ha	22.7ha	26.0ha
		実績	19.5ha	22.6ha	25.9ha	—
内 容	助成対象の取組を行った農業者					
具体的要件	○助成対象者 下記の1～2のどちらかを行い、取組要件を満たす農業者。 ○取組要件 1. 粗飼料生産水田での放牧 ・放牧頭数が成牛換算で2頭以上(ha当たり) ・延べ放牧日数が180頭日以上(例:2頭×90日=180頭日) ※対象牛はおおむね24ヵ月齢以上の成牛又は8ヵ月齢以上の育成牛であること。 なお、成牛換算においては、育成牛2頭あたり成牛1頭とする。 2. 粗飼料生産水田への堆肥の散布 ・自己の堆肥でないこと ・自己の散布でないこと ・散布量が2トン又は4立米/10aであること					
取組の 確認方法	○現地確認 ○作業日誌、利用供給協定書、自家利用計画書					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認 ○作業日誌。利用供給協定書・自家利用計画書により高度利用面積を確認					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	初山別村地域農業再生協議会				整理番号	8
使途名	そばの作付け					
対象作物	そば					
単 価	20,000円／10a					
課 題	初山別村は高齢化率(農業就業人口の内65歳以上の割合)が北海道の平均よりも15ポイント高く(51.4%)、道内でも高齢化の進んだ地域である。目下の課題として、高齢化による労働力の低下による生産性低下が上げられることから、機械化一貫体系が確立しているそばを作付けした農業者に支援することにより、地域全体の生産性の向上を図り、水田面積の作付維持・拡大をしていく必要がある。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	—	4.0ha	4.1ha	5.0ha
		実績	4.0ha	4.0ha	4.8ha	—
内 容	そばの作付け・出荷を行った農業者に支援する					
具体的要件	○助成対象者 対象作物の作付け・出荷を行った農業者 ○助成要件 そばの販売及び出荷					
取組の 確認方法	○現地確認 ○販売伝票、JA精算書等					
成果等の 確認方法	○地域農業再生協議会等において年内に確認 ○作付面積は耕地図または営農計画書により確認					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。